

今回のテーマ

暑い日が続くようになりました！

5月中旬になり、暑い日が続くようになりました。学校現場においては新年度がスタートして1ヶ月、ようやく子どもたちの生活も落ち着いてくる頃です。ちょっとだらけてきた子どもたちを奮起させる時期ですね！

今号では講演・授業に役立つトピックスを紹介します！

学校行かずゲーム16時間 運動乏しく 肺は53歳判定

自宅には面倒をみている当時中学3年の男子生徒がいた。学校にも塾にも行かずに家でスマートフォンのゲームばかりしているのをとがめたら、キレて襲いかかってきた。「うるせえ」「死ぬ」髪をつかまれてひきずり回され、殴る蹴るの暴行を受けた。身の危険を感じ、家を出た。

暴力は日常茶飯事だった。救急車で運ばれることもあった。イスを投げつけ、壁や家具はボコボコだ。男子生徒は「ゲームにはオーラがある」という。キャラクターを集めて育て、対戦させるオンラインゲーム。常にバージョンアップされて新しいキャラが次々に登場し、終わりが無い。ネットを介して見知らぬ人とつながり、一緒に戦ったり敵になったりする。「まったく飽きなかった」厚生労働省の調査ではネット依存症の疑いがある中高生は全国に約52万人にのぼるといわれる。

※先日、娘を連れて、近所の公園に行った際に小学校低学年ぐらいの子たちが7～8人遊んでいました。ベンチに座っている1人の子のスマホをのぞき込み、動かさずじっと見続けていました。これを外遊びというのか…子どもを公園で遊ばせ、スマホをいじり続ける保護者、レストランで会話せずにひたすらスマホをいじり続ける家族などよく見かける光景になりました。スマホをいじり続けている大人から「スマホの利用時間を短くしましょう」と子どもに言えますか？

朝日新聞デジタル「学校いらずゲーム16時間 運動乏しく 肺は53歳判定」

<https://www.asahi.com/articles/ASL4J34NBL4JULBJ002.html?ref=yahoo>

(閲覧日 2018年5月13日)

ネット依存症

予防するには費やした時間の記録から

WHOは今年6月に公表する疾病分類の改訂案で初めて、ゲーム依存症を「ゲーム障害」として疾患名に入れる。

久里浜医療センター樋口委員長は「意思が弱いからゲームやネットをやめられないのではなく、依存症という病気。依存症の状態に陥ったら個人や家族の努力だけで治すのは困難。専門機関の治療を受けてほしい」と話す。

依存の恐れがある場合は自分がどれぐらいゲームなどをしているのか実態を把握すること、実現可能な目標を立てることが大切と話している。

※依存の恐れがある段階できちんと自分自身や家族の使い方を記録することが問題の深刻化を防ぐ方法ではないかと思えます。そのため、啓発活動を通して、依存傾向の人に気づかせていくことは大切です。

参考 ヤフーニュース

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180505-000>

00006-asahi-soci

(閲覧日 2018年5月7日)

編集後記

今月のWHO総会でICD-11に「ゲーム障害」が入ることが予想されます。具体的にいつかはわかりませんが、正式に入れば、日本も対策に本腰をいれる必要があり、世論も変わる可能性があります。動向に注目ですね！